

2022年11月18日

経皮経肝胆嚢ドレナージ (PTGBD) 後に腹腔鏡下胆嚢摘出術を受けられた患者様へ

「PTGBD 留置後に施行した待機的腹腔鏡下胆嚢摘出術の治療成績の検討に関する研究」への協力のお願い

当院外科では、過去に下記のような治療を受けた患者様の試料・情報を用いた研究を行います。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

① 研究の対象

2019年1月1日から2021年12月31日までの期間で急性胆嚢炎に対しPTGBDを留置した症例で、待機的腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した患者様。

② 研究の期間

2022年11月18日～2023年12月31日

③ 研究の目的

急性胆嚢炎に対しては早期胆嚢摘出術が推奨されておりますが、患者様の全身状態や施設事情により経皮経肝胆嚢ドレナージ (PTGBD) が選択されることがあります。PTGBD 留置後の胆嚢摘出術の治療の現状と成績を明らかにすることは、今後の急性胆嚢炎治療の進展につながると考えます。

④ 研究の方法

2019年1月1日から2021年12月31日までの期間で急性胆嚢炎に対しPTGBDを留置した症例で、待機的腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した患者様の既存の情報をを用いた後方視的検討です。電子カルテ情報をもとに以下の情報を抽出し、手術成績につき検討します。患者様の年齢、性別、全身状態 (CCI index や ASA-PS 分類)、併存疾患、胆嚢炎の Grade、画像情報 (胆嚢壁肥厚や胆石の有無)、術前・術後の採血結果 (白血球数、CRP 値など)、発症から PTGB 留置までの期間、PTGBD 留置後留置から手術までの期間、手術時間、出血量、周術期合併症、在院日数

⑤ 研究責任者

桐山 俊弥 所属 中部国際医療センター 外科

⑥ 指導研究者

山口 和也 所属 中部国際医療センター 外科・副病院長

研究への参加辞退をご希望される方へ

本研究に関して新たに患者様に行っていただくことはありません。また、ご自身に新たに費用が発生することはありません。本研究に関する質問等がありましたら、以下の連絡先までお問い合わせください。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて了承いただけない場合には、研究の対象といたしませんので、以下の連絡先まで申し出ていただけますようお願いいたします。なお、本研究は中部国際医療センター医学研究等倫理委員会の承認を得ております。また、この研究の参加をお断りになった場合にも、将来にわたって当病院における診療・治療において不利益をこうむることはありません。

研究から生じる知的財産権の帰属と利益相反

研究者及び研究施設に帰属し、研究対象者には生じません。研究の結果の解釈に影響を及ぼすような「起こりうる利益相反」は存在しません。

連絡先

中部国際医療センター 外科

電話番号 0575-66-1100 (内線 7793)

責任者氏名：桐山 俊弥